A10 「場」の概念からみた図書館における来館を促す建築的魅力に関する研究

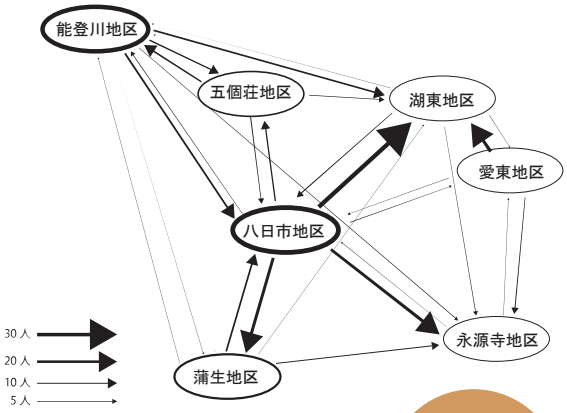
工学部・建築学科・教授・中井　孝幸
t-nakai@aitech.ac.jp

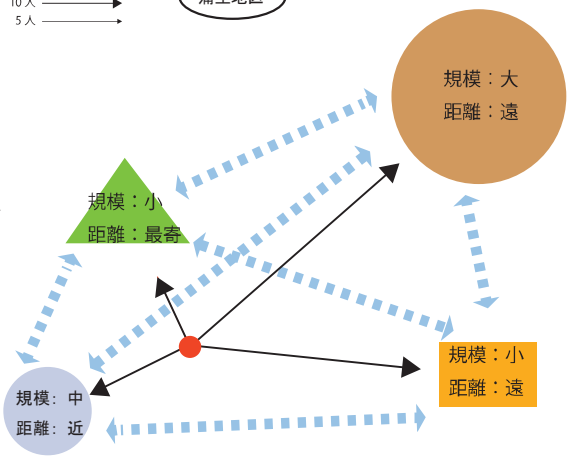
キーワード　図書館、場、使い分け、選択行動、居心地

概要

滋賀県東近江市の 7 つの図書館にて約 3 週にわたって土曜日一日全来館者を対象としたアンケート調査を実施し、7 つの図書館の利用状況や各図書館への利用意識について分析を行った。

従来の図書館では複数の図書館利用は来館者の 2 割程度であったが、東近江市では 6 割近い利用者が複数の図書館を使い分けており、近さだけではない、各館の特色をよく理解した上での図書館を選択、つまり「場」を相対的に選択していることが整理できた。





セールスポイント

1．優れた図書館の多い東近江市で調査できたことで、図書館が提供するサービスを利用者がきちんと享受していることが分かった。
2．地域のサロンとしての利用、学習発表の場、ハシゴ利用などの行動が観察できた。

企業等での活用例、今後の展望等

1．来館者アンケート調査や館内の行動観察調査に基づく、実践に即した計画づくりを行い、石川県珠洲市、京都府綾部市、三重県亀山市などの図書館で提案している。
2．図書館の施設サービスと利用の関係をさらに考察するため、特徴あるサービスを提供している大学図書館でも調査を行い、「場」としての魅力を利用者はどこに求めて利用しているのか、個人とグループ利用の視点から分析を進めている。

参考資料

1．秋野崇大、中井孝幸：使い分け行動に基づく図書館の特色と利用者意識について－居場所としての図書館計画に関する研究その 2、日本建築学会地域施設計画研究 30、pp.127-136、2012.7